

枚方中国語を学ぶ会だより

2022年10月号
枚方中国語を学ぶ会

熱列歓迎、新入会員を向かえて歓迎会



去る6月22日、枚方中国語を学ぶ会の2022年度新入会員歓迎会がサダ生涯学習センターで行なわれました。

新型コロナウイルスの感染拡大で外出もままならないという状況下、「新入会員があるかな」という心配もありましたが、入門班が成立するだけの新規学習者の参加だけ

でなく、他の班にも学習経験者の方が新たに加入され、心配は杞憂に終わりました。

また、コロナの影響で2年間新入会員歓迎会など、イベントが出来ず、この間の新規加入のみなさんの自己紹介の機会も無かったので、合わせて3年間の新規加入の方に自己紹介をしていただきました。(写真)

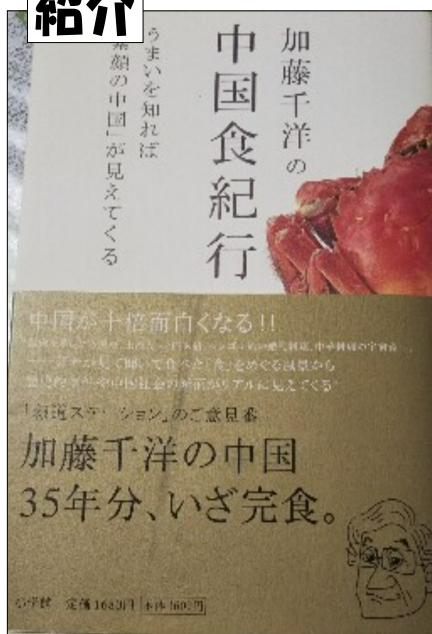
歓迎会では、冒頭に西川会長の挨拶があり、それに続いて各班の新入会員の挨拶がありました。経験者の中国語での挨拶を聞いて、新入会員の方が「自分もあんなりたいと励みになった」と言われていたのが印象的でした。

続いて各班老師の「今年の抱負」の発表があり、その後に中検準4級合格の谷本さん(初級班)、同じく4級合格の大島さん、熊谷さん(共に中級班)、3級とHSK4k級の両方に合格された岡崎さん(中級班)の表彰がありました。

その後会食に移りました。コロナ禍で、大声での談笑や杯を酌み交わすなどは出来ませんでした。班からの出し物もあり、楽しいひと時をすごしました。

最後に中国歌「送別」を聴いて、3年ぶりに開催された歓迎会を終えました。

紹介



報道ステーションの初代コメンテーターの加藤千洋さんが、食を通して中国の指導者や社会を語った一冊。外国語を学ぶことは、その言葉を母語とする人々の歴史や文化、生活をも学ぶこと。是非読んで欲しい1冊です。

西川会長の中国語余話⑱

贈り物への返礼、日中の文化の違い

今回は、中国語を休憩して、中国文化について考えてみたいと思います。

大切な「友達付き合い」について見てみましょう。日本では、友人、知り合いから贈り物、特に少し高価なもの頂いた時、「大変だ、

すぐに返礼しなくちゃ」となり、しばらくして「先日はどうもありがとうございました。これ、つまらないものですけど……」とできるだけすぐに返礼するのがマナーですよね。

ところが中国人にこれをするとはあまり喜んではもらえません。

なぜなら、それは「前回、私が、日本人にはあれがいいかこれがいいかといろいろ考えて、差し上げたのに、すぐに日本人から私の気持ちが返されて、清算されてしまった」と理解されるからのようです。
